

知財フロンティアの開拓に向けて

(分野別知的財産戦略)

概要

2007年12月13日

知的財産による競争力強化専門調査会

会長 相澤 益男

経緯

「知的財産推進計画2007」
(本年5月)

科学技術基本計画上の重点推進4分野を対象に
競争力強化の観点から分野別知的財産戦略を策定
(ライフサイエンス、情報通信、環境、ナノテクノロジー・材料)

本年8月～11月21日

分野ごとのプロジェクトチームを設置。その専門的検討を踏まえ、本調査会において調査検討

各分野の知財上の特性と現状

知財上の特性

現状

ライフ
サイエンス

一製品少数特許
基本特許の役割が大

欧米が特許出願でリード
遺伝子組換え生物等の
技術革新が進展

情報通信

一製品多数特許
相互接続性の確保

権利関係が錯綜
権利濫用事例の顕在化

環境

ニーズ指向
政策の及ぼす影響大

我が国技術の国際展開
が不十分

ナノ・材料

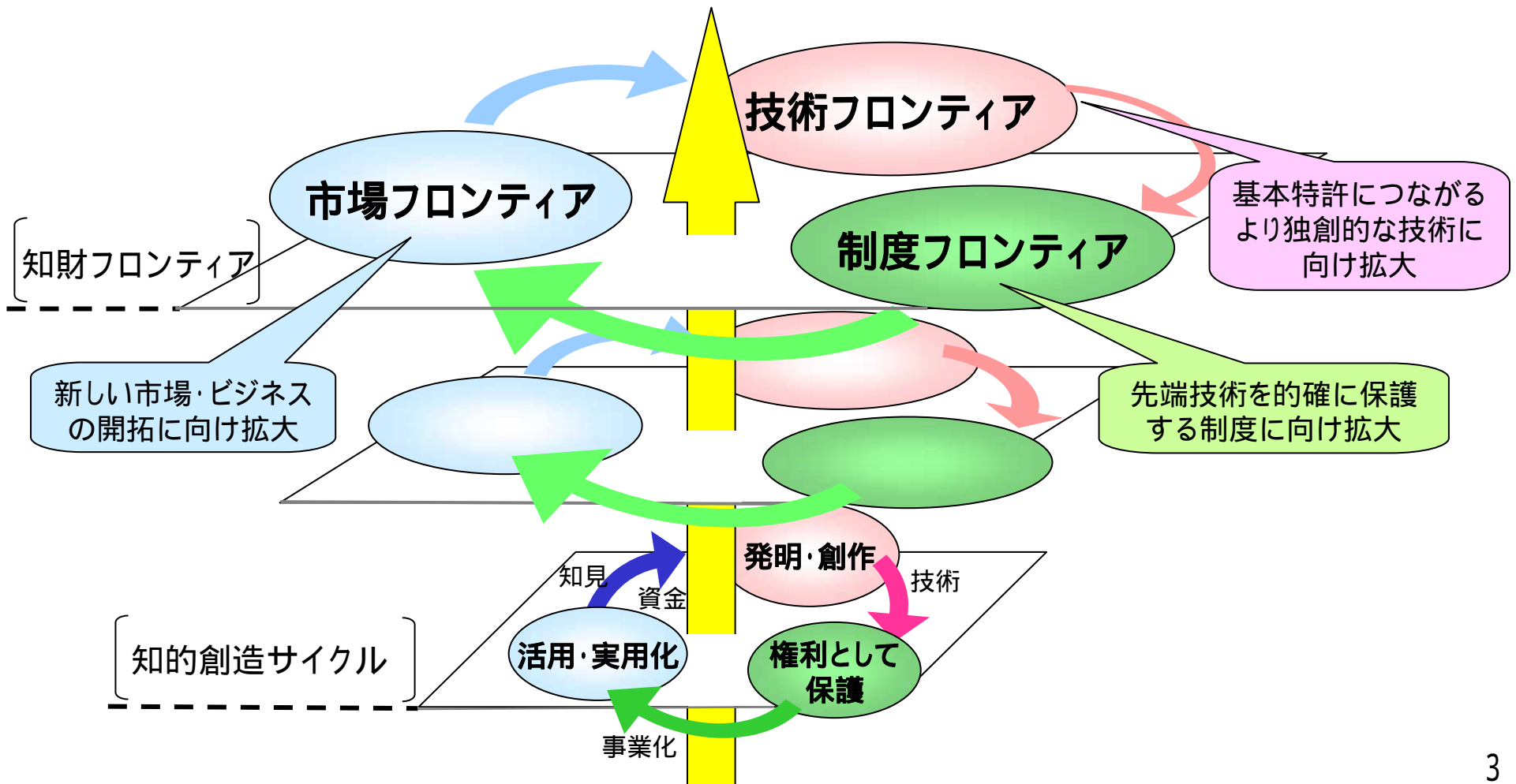
シーズ指向
幅広い産業分野に応用

用途開発は米国に遅れ
る面あり

基本理念

大目標 連続的なイノベーションの創出による国際競争力の強化

基本理念 知財フロンティア(技術・制度・市場)を開拓する



基本戦略と具体的取組

基本戦略

技術フロンティアの拡大

基本特許(上流)を確保し、
幅広く(下流まで)技術を押さえる

制度フロンティアの拡大

新ビジネス開拓を促進する知財制度の整備

市場フロンティアの拡大

優れた技術の共通基盤化

中小企業による知財の積極活用

国際展開の促進

配慮すべき事項

濫用的な権利行使(「パテント・トロール」)への対応

当面の具体的取組

競争的資金の戦略的重点化
研究開発の障害の除去

(実験用動植物(リサーチツール)の特許情報の開示)

特許権存続期間延長制度の対象見直し

(遺伝子組換え生物、DDS(ドラッグデリバリーシステム)等)

ネットワーク社会における著作権法の在り方の検討

(検索サービスに係る問題の早期解消等)

国際標準獲得への取組の強化

オープン・イノベーションへの対応の検討

中小企業の知財活用への支援強化

模倣品・海賊版拡散防止条約の早期実現

グローバルな課題への知財による貢献

(環境技術等への積極的な技術移転)

早急に論点を整理し、国民的議論を喚起
(被害が多発している米国での判例等を参考)